

Acrobatを使ったPDF校正原稿の作成

校正のやり取りがオンラインで行われることが多い昨今、
Acrobatを使ってPC上で赤字指示を行うPDF校正が利用されています。
PDF原稿の問題点や望ましい作成方法についてご説明します。

■Acrobatで赤字原稿を作成

ひと昔前は、出校といえば必ず紙にプリントしてお客様へお届けしていましたが、現在ではPDF送信で完了させることが多くなりました。お客様からも校正原稿をPDFにして送っていただきますが、その作成方法は、出校されたPDFを一旦プリント出力して手書きで赤字を入れ、オフィス向け複合機などでスキャンして再度PDF化するというのが一般的です。この工程を、PDF編集アプリであるAcrobatを使用することにより、プリント出力や手書きを伴わない、完全にPC上での作業にすることが可能です。

■PDF校正のメリットと問題点・注意点

Acrobatで赤字指示を入れることにより、編集現場のペーパーレス化が実現します。プリンタのない作業環境でも校正戻しまで行えることは大きなメリットと言えます。ただし、制作現場では必ず赤字原稿をプリント出力しています。画面で赤字原稿を確認しながら修正を行うことは、作業精度や作業効率を大きく損なうからです。そのため、「プリントアウトすることが

できない修正指示が入っている」PDF原稿はNGです。また制作現場では、赤字のない部分に変化していないか確認することも重要ですから、「修正指示が他の部分を隠してしまっている」原稿も適当ではありません。

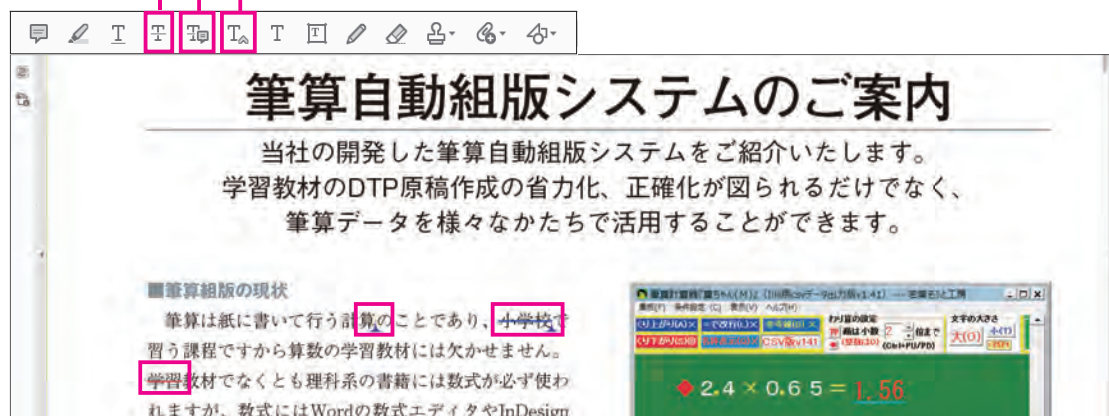
当社では、Acrobatの注釈機能を使った校正原稿作成を推奨しています。注釈機能ではお客様が入力したテキストをコピーすることができるため、制作での入力ミスを防ぐことができます。これらの修正指示を視覚的に確認するためには「注釈の一覧」を作成して表示します。ただし、修正指示が多い場合は非常に見づらくなるのがネックです。

そのほか、改行や入れ替え、行詰めなどの指示には「描画ツール」を使います。描画ツールは手書きと同じ感覚でPDFデータ上にフリーハンドの線を描けます。ただし、これも大量の赤字を入れるとなると、タブレット端末やスタイラスペンなどのデバイスを用いないとかなり手間のかかる作業です。

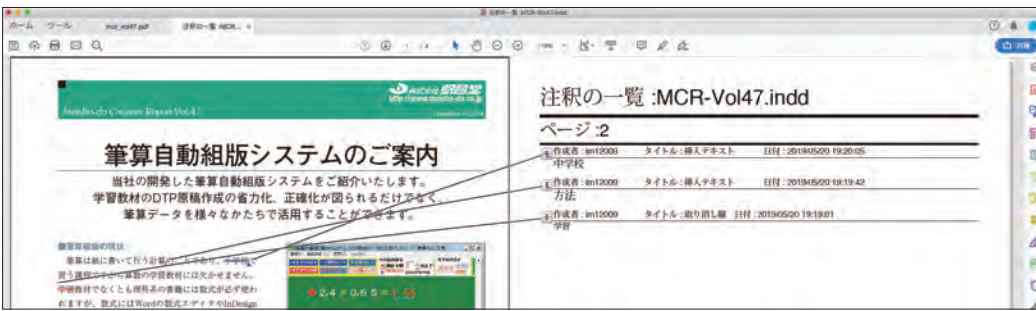
以上のような現状を考慮すると、赤字原稿の作成はまだ手書きが優勢で、完全なPDF化はしばらく先になるかもしれません。

Acrobatの注釈機能を使った修正指示の入れ方

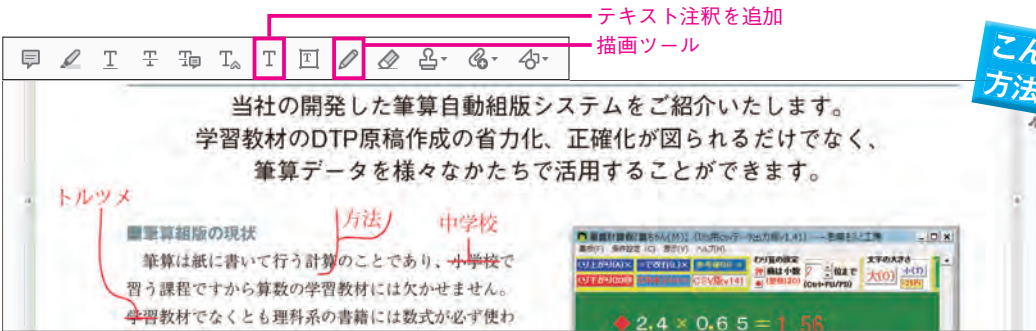
テキストに取り消し線を引く 置換テキストにノートを追加 カーソルの位置にテキストを挿入



「テキストに取り消し線を引く」、「置換テキストにノートを追加」、「カーソルの位置にテキストを挿入」で修正指示を入れます。しかし、このままでは視覚的に見づらいので「注釈の一覧を作成」し入稿する必要があります。



「注釈の一覧」の表示例です。注釈機能を使って行った修正内容やテキストが一覧で表示され、テキストを挿入したり置き換えたりした箇所と、それぞれ線で結ばれます。

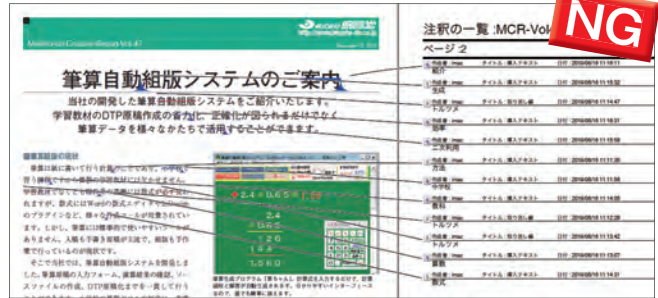


こんな方法も

「描画ツール」でフリーハンドの線を引き「テキスト注釈を追加」で文字を入力。紙に赤字を入れる感覚でPDFに赤字が入られ文字はテキストデータとして利用できます。



注意

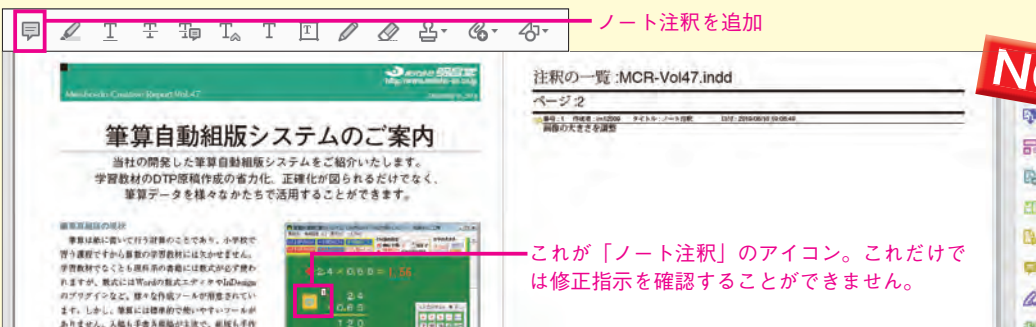


NG

「テキストをハイライト表示」機能を使うとテキストにマーカーを引くことができます。ただし、このマーカーがどのような指示を意味するのは注釈パレット見ないと分かりません。

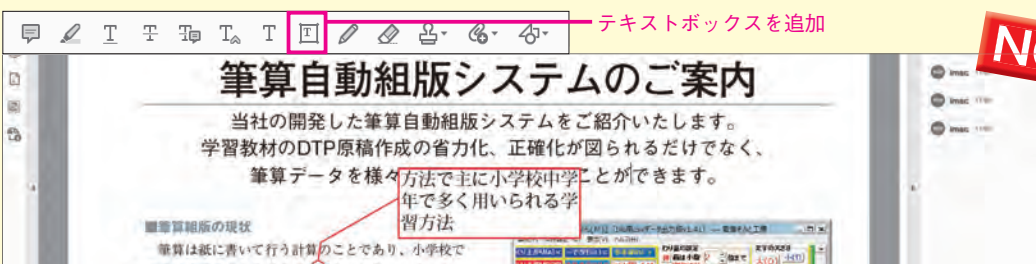
赤字箇所が多い「注釈の一覧」の例。このレベルの赤字量の場合は注釈の引き出し線が非常に見つらくなるため、手書きで赤字を入れてもらうことになります。

注釈機能や描画ツールを使わない赤字例



NG

「テキスト注釈を追加」と似たようなツールで「ノート注釈を追加」がありますが、このツールで修正指示を入れてもアイコンと注釈の一覧は線で結ばれません。



NG

「テキストボックスを追加」ツールを使用して赤字を入れるとテキストデータとしての活用はできるのですが、下の絵柄を隠してしまうのでNGです。